

東海学院大生が試作

特産の「各務原にんじん」の消費拡大と一層の認知向上を目的にした商品開発検討会

が27日、東海学院大（各務原市那加桐野町5、神谷眞弓子学長）で開かれた。おいしさと見た目の美しさを追求した大学生が、参加した食品製造販売事業者に対し、自信作をアピールした。

【高橋龍介】

どうやきいろいろなど

検討会で紹介

た。

されたのは、どうやき、いろいろ、せんべい、ぼうろ、マドレーヌ、蒸しパン、葉膳カレー、カルボナーラなど計18品目。試食した浅野健司市長は「回を追うごとに内容が充実してきた。ふるさと納税の返礼品にも使えそうで、期待している」と満足そうだった。協議会では今後、11月24日の「いいにんじんの日」に向け商品化に取り組むところ。
（22）は「ニンジンの甘さに砂糖とザラメを使い、控えめの甘さと食感に工夫を凝らした。焼き加減に苦労したけれど自信作。商品化されるとうれしい」と話した。



食品製造販売事業者の代表にニンジンを素材にした試作品を勧める大学生（左）＝各務原市那加桐野町5の東海学院大で

各務原人参アランド推進連絡協議会」を組織する。

4年生の南まどかさん